

## 第6回鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会 会議録

- 日 時 令和8年2月20日(金) 午前10時～午前11時50分
- 会 場 鶴岡市勤労者会館 大会議室
- 出席委員  
上田和義／大滝忠／佐藤正和／田中英嗣／富樫繁朋／本間久士／今野喜行／丹治亜香音／伊藤敦
- 欠席委員 櫻井孝輔／一関美子／渡辺真美／本間妃織／長谷川玲子
- アドバイザー 仲綾子
- 市側出席職員  
企画部長 上野修／健康福祉部長 菅原青／建設部長 坂井正則／政策企画課若者・子育て世代応援推進室長 本間育子／子育て推進課長 成沢真紀／同課主幹 五十嵐雄／都市計画課長 岡本臣市／同課課長補佐 本間仁／子育て推進課主査 上野和義／同課主事 高木康輔／政策企画課主事 菅原拓磨／子育て推進課主事 石黒心
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 1人
- 協議・報告事項等
  - (1) プレーパーク展開事業について(資料1)
  - (2) 公園遊具の整備について(資料2)
  - (3) プレーパークの整備について
    - ① コミュニティ・子育て拠点整備について(資料3)
    - ② プレーパーク整備の基本的な考え方について(資料4)

### 1 開会 事務局(健康福祉部長)

### 2 委員長・副委員長選出

委員長に伊藤敦委員、副委員長に田中英嗣委員を選出

### 3 報告〈議長：委員長〉

#### (1) プレーパーク展開事業について

#### 議長

(1) プレーパーク展開事業について、事務局の説明をお願いします。

#### 事務局(子育て推進課長)

プレーパーク展開事業について資料1により説明。

市が整備を進めているプレーパークを多くの市民に知ってもらうとともに、こどもの遊び

を担う人材となるプレーリーダーの発掘・養成を目的として、昨年10月にプレーパーク展開事業を実施した。

プレーリーダー養成講座では座学（講義）と実地研修を行い、プレーリーダーに興味・関心がある方の発掘や仲間づくりの一端を担うことができたが、参加者確保が課題となった。

プレーパーク体験会は2日間開催し多くの親子連れが参加した。アンケートでは9割の方から満足・やや満足と回答があり、こども達が自由に遊ぶことができたことや、スタッフがいることで安心して遊べたなどの評価があった。課題は参加者数が天候に左右される面があったため、天候や自然環境を活かしたプレーパークの可能性を探り活動の定着を図る必要がある。

## 議長

ただいまの報告について、質問や意見等あればお願いします。

## 委員

育成したプレーリーダーはどんな場所や内容で活躍することを想定しているか。

## 事務局（子育て推進課長）

市として「こういうところで活動してください」ということはまだなく、参加者がそれぞれの立場で習得した知識を活かして活動している。今後何らかの機会を持ちながら、参加者が繋がっていけるような活動の場を確保していきたい。

## 委員

活動の場を用意してやったほうが、参加者も具体的にイメージできていいと思う。

## 議長

委員のうちお二人がプレーリーダー養成講座に参加されたと伺った。その際の感想などをご紹介いただければと思う。

## 委員

自分はボーイスカウトやネイチャーゲームの活動をしているが、それらはどちらかというプログラムを与えてこども達が楽しむというものになる。プレーパーク体験会では、木や草などの自然環境に加え、段ボールや廃材など遊びの素材を置いておくだけで、こども達の発想で遊びが展開され、時間を忘れて生き生きと楽しそうに遊んでいる姿が見られた。また、プレーリーダーが安全面での見守りや遊びを繋げる役割を担い、基本的にはこども達が主体となって創造的に遊べる場は本当に素晴らしいと思った。

今後プレーリーダーが増え、仲間として鶴岡で初めてのプレーパークを良い形で運営し、こども達の遊び場の一つとして市民に理解されていけばいいと思う。

## 委員

以前からプレーリーダーやプレーパークに興味があり参加した。

今まで鶴岡にはこのような遊び場が無かったので、保護者も子ども達も最初は戸惑ったと思うが、来てみると、親も子もやりたいことを自由に思い切りやることができたようだ。プレーリーダーがいることで、保護者も子ども達をゆっくり見守れる気持ちになって表情が柔らかくなり、楽しかったと言ってもらえた。

プレーリーダーは今資格ではないが、職業プレーリーダーとして価値が上がってくると、子どもの遊びも変わってくるし、遊び場としての認識も変わってくると思うので、職業プレーリーダーの養成を時間をかけてしっかりやっていかなければならない。

## 議長

事務局は今の感想などを踏まえて次年度に活かして欲しい。

(2) 公園遊具の整備について、事務局の説明をお願いします。

## 事務局（都市計画課長）

公園遊具の整備について資料2により説明。

今年度の整備箇所は、美咲町の西部公園、稲生二丁目の北田公園、道形町の道形公園の3公園で、整備にあたっては、公園周辺にある学校や保育園、町内会、身体障害者福祉会などから聞き取りをしながら遊具を選定し整備を進めている。

遊具は市が選定した3種類の候補の中から選んでもらう形で進め、西部公園は幅の広いすべり台などが選ばれた。北田公園と道形公園は、市が選定した候補以外に要望のあった遊具も加えて聞き取りを行ったところ、2公園とも市が選定したものではない遊具が選ばれた。現在整備を行っており、3月中に完成し4月には利用できるように進めている。

来年度は西部公園の3つの遊具の更新を予定しており、引き続き利用者の意見を聞きながら整備を進めていきたい。

## 議長

ただいまの報告について、質問や意見等あればお願いします。

## 委員

地域の方や利用者の声を聞いて整備するのはいいが、安全な利用の仕方がわかって選んでいるのか。同じ遊具で遊ぶにしても、小学生は遊具や遊び方に対する体力や知識もあるが、小さい子は危険な場合もあるので、設置の仕方など十分な配慮が必要と思う。

## 事務局（都市計画課長）

高低差があるなど危険なものについては、遊具のそばに「端に寄らない」「立って滑らない」などの表示をするなどして、安全に利用していただけるよう努めたい。

## 委員

禁止のポップや看板があると禁止だらけの公園になってしまうので、安全に使うのは大事だが、禁止の看板だらけの公園にならなければいいと思う。

## 事務局（都市計画課長）

禁止という形ではなく、あくまでも注意を促すものと考えている。西部公園のすべり台は築山の斜面に沿って滑っていく形になっているので、高低差は今とそう変わらない。

## 委員

車いすの方はどこの公園に行ったらいいか。また、自閉症のこどもは揺れるものが好きだが、どの公園に行って遊ばせたらいいか。そういったことを念頭に、インクルーシブの要素を取り入れて来年度の整備計画を立てて欲しい。

## 事務局（都市計画課長）

来年度は西部公園の複合遊具を更新する予定にしており、インクルーシブの考えのもと、車いすの方でも遊べる遊具の整備を考えている。

## 4 協議

### （1）プレーパークの整備について

## 議長

（1）プレーパークの整備について、①コミュニティ・子育て拠点整備についてと、②プレーパーク整備の基本的な考え方について、事務局の説明をお願いします。

## 事務局（子育て推進課長）

コミュニティ・子育て拠点整備について資料3により説明。

旧二小跡地に第二学区コミュニティセンターを移転改築し、こどもから高齢者までが交流できる場、地域でこども・子育てを支える拠点となる、コミュニティ・子育て拠点整備を進めている。中央児童館南側にコミセンを建設し、二つの施設が連携して活動しやすい配置にする。屋外は現在の地形や樹木を活かしながら、こども達の遊び場となるプレーパークや、大人も交流したり休憩したりできる広場を設ける。

事業の目的や目標、コンセプトは資料記載のとおり。

敷地内は、交流ゾーン、地域活動ゾーン、冒険遊びゾーン、憩いゾーン、自然探求ゾーンの5つのゾーンに分け、各ゾーンの機能によって、誰もが居心地よく、人や地域が繋がる空間を作る。

中央児童館は現在の意匠を最大限に活かしながら長寿命化を図る改修を行うと同時に、壁や仕切りをできるだけなくして見通しの良い広い空間にする。また、屋内と屋外を行き来し

やすいよう、半屋内の「はだし広場」を増設する。

プレーパークの基本的考え方について資料4により説明。

プレーパークの整備にあたっては、本市におけるプレーパークの基本的な考え方を定めたいうえで実施していくもの。中長期的には既存の施設を活用しながら市内各地域に計画的にプレーパークを整備していきたい。短期的には旧二小跡地に屋内と屋外が一体となったプレーパークを整備する。旧二小跡地に整備するプレーパークに中核的な役割を持たせ、こどもの遊びを支える仲間を作りながら、この仲間達が活動母体となって各地域にプレーパークを実施できる環境を整えていく。

プレーパークの整備・運営にあたっては、行政がすべてを担うことは困難なことから、地域住民と行政それぞれが互いの強みを活かして協力し合う「パートナーシップ」によって創っていききたい。

今年度は基本的な考え方をまとめ、来年度に整備手法や運営方法、整備候補地、プレーリーダーの養成方法などを検討し、プレーパーク整備を推進していく計画を示したい。

## 議長

ただいまの説明について、質問や意見等あれば願います。

## 委員

移動型プレーパークとはどういうものか。

また、郊外地などでプレーパークをやる時はハードを整備するのか、ソフト面だけでやっていくのか伺いたい。

## 事務局（子育て推進課長）

プレーパークはハードを整備して常設で行うもののほか、プレイヤーに道具や材料を積んで身近な公園などに出かけていき、そこで一日プレーパークを開くなどの移動型がある。

旧二小跡地に整備するプレーパークのプレーリーダーが温海や藤島などに出向いて、プレーパークを体験してもらおうといったこともできるのではないかと考えている。

## 委員

市街地のプレーパークを拠点としてスタッフが派遣されていくのではなく、それぞれのプレーパークが主体的にプレーパークを運営するという形のほうがいいのではないか。

例えば温海地域は天然の素材や遊び場がたくさんあり、遊具などは必要ないと思う。そこにある物を活用して遊べるようにするプレーリーダーの育成は大事であり、それが地域への愛着の醸成につながっていくのではないか。コミュニティ・子育て拠点整備方針の事業目的は素晴らしいが、それと人がまだつながっていないと思う。

### 事務局（子育て推進課長）

プレーパーク整備にあたって一番の課題は人材の育成であり、はじめに旧二小跡地でプレーリーダーを養成し、移動型のプレーパークなどを行う中で仲間を増やし、その仲間達が地元でプレーパークを展開していくことが理想と考えている。

こども達が地元の自然や地元のものを使って思い切り遊び込むことで、自分の地域を好きになり、そこで自分も活躍したいと思えるようなこどもを育てていきたい。

### 委員

今のやり方では市街地に集中してしまう懸念がある。東北で一番広く、多様な文化がある本市において、どんどん地域に行くような仕掛けを作ってほしい。郊外や地域にもプレーパークを整備する構想があるのであれば、その点も念頭に入れた人材養成を進めて欲しい。

### 議長

コミュニティ・子育て拠点整備について、管理運営のあり方も含めた敷地全体の使い方について質問や意見はないか。

### 委員

広い敷地なので、一つの団体が活動のプログラムや緑地の整備などすべてを行うのは大変であり、こどもの遊び場と地域のコミュニティセンターが上手く連携できるような仕組みがあればいいと思う。それぞれの場所に適材適所で専門の方が入り、行政や地域、企業などが連携していくのがいいと感じている。

### 事務局（子育て推進課長）

敷地全体の管理運営も課題になっている。予定としては、コミュニティセンターを指定管理、中央児童館と屋外をコミセンとは別の団体に、指定管理か業務委託により運営していただく形となる。それぞれの団体がバラバラにやっていると上手く管理できないと思うので、連携しながら管理運営できる体制を来年度検討することになっている。

### 委員

コミュニティ・子育て拠点整備はいつ完成予定か。

### 事務局（子育て推進課長）

令和8年度に実施設計、令和9年度と10年度に工事を行い、10年度中には全体を同じ時期にオープンしたいと考えている。

### 委員

整備計画全体を俯瞰してみると良いプランだと思うが、こういった事業が行われているこ

とをどう市民に発信していくか。情報の受け手側である市民がプレーパークに興味を持ち、関わってみたいと思ってもらえるためには定期的な発信が大事だと思う。

公園遊具の整備も、地域の親子などから引き続き声を聞いていくことで、地域住民も参加しているという意識を持つことができる。発信と受信のキャッチボールを丁寧にやっていけば、この計画は素晴らしいものになると思う。

### 事務局（子育て推進課長）

情報発信は常に意識しているが、なかなか行き届かないという悩みを抱えているので、いろいろと工夫しながらお知らせをしていくよう努力したい。

### 議長

プレーパークを展開していくイメージや、将来的に候補になりそうな場所や施設など、今後の整備を進めていくうえでの考え方について、質問やご意見はないか。

### 委員

整備の方向性として、既存の施設を活用とあるが、これから藤島地域の学校統合が進むなどして空き校舎が出てくると思う。そうしたものも含めて、どのような施設の活用を想定しているか。

プレーパークについて、市民は字面で何となく冒険遊びをすることでケガの危険があると感じてしまうのではないか。そのため、ケガをさせないために禁止事項が増え、本来のプレーパークではなくなってしまう可能性もある。ケガも自己責任というのがプレーパークの考え方であり、遊び場の選択肢の一つとして、ケガのリスクなどを理解したうえで遊ぶ場所ということ十分に周知していく必要があると思う。

### 事務局（子育て推進課長）

活用できる既存施設としては、閉校した学校や保育園の建物のほか、自然環境、未利用の施設や公園の一角などが候補として考えられる。これまでの協議会でも、遊び場の候補となる場所の洗い出しをしてはどうかというご意見があり、リストアップをしているが、数が多いことと、身近な場所として適切かということなどの問題もあり、できるだけ身近な場所に遊び場を整えられるよう考えていきたい。

プレーパークがどういうものかまだまだ市民には知られていないため、ケガのリスクも含めて様々な形で周知啓発をしていきたい。

### 委員

実際に温海で活躍されている委員もおり、道の駅や高速道路の整備で温海の注目度は高い。自然を活かしたプレーパークの第一弾として温海エリアを考えていくのも面白いのではないか。

これまで話してきたことのおさらいも含め、プレーパークを展開していく上でのアドバイスを仲先生にお伺いしたい。

## 仲アドバイザー

資料の8、プレーパーク展開事業委託業務報告書の21ページに参加者の要望として、こういうものを用意してほしい、こういうものが無かったから楽しめなかったという声がたくさん載っており、遊びは与えられるものと考えている参加者が多いことが浮き彫りになったと思う。

公園遊具の整備について、利用者の意見を聞きながら進めることは良いが、これが良いと言われたからそれにするというやり方が良いのかどうか。背景にある考え方や状況をよく議論して、必要なものは何かを考えることが重要ではないかと感じた。プレーパーク展開事業のアンケートと公園遊具のアンケートの背景にあるものは繋がっていると思う。

禁止だらけの公園にたくないという意見はそのとおりだと思う。イギリスにあるプレーパークでは、下に木チップを敷いて落ちててもケガをしない工夫をしている。禁止するのではなく、挑戦して失敗しても大きなケガにならないような配慮をしているところもある。

インクルーシブ遊具も大事な視点で、障害のあるこどもも楽しく遊べるよう工夫した遊具も開発されているので、ぜひ検討してほしい。

コミュニティ・子育て拠点整備について、プレーパークは屋内と屋外の両方がある施設が大事だが、それぞれがバラバラでは一緒にやっている意味がなくなる。イメージ図にある半屋内の空間や建物同士を繋ぐ参道などは、屋内での活動を屋外に展開させるうえで重要な空間となる。

プレーパークで全てを解決するのではなく、いろいろな遊び場の一つがプレーパークと捉えたい。プレーパークを拠点として周辺地域に広がっていくことが大事だが、鶴岡は地域資源が豊かで、それぞれの場所で活動が展開している。子育て支援センターや民間の遊び場、自然体験活動など、プレーパーク以外の活動を行っている団体と連携して、全体の遊び場が展開できるネットワークができるといい。それが鶴岡ならではの地域への愛着の醸成につながっていくのではないかな。

## 委員

NPO 法人自然体験温海コーディネットは約11年前に設立され、地域資源である自然や文化、暮らしを題材にした体験活動を行ってきた。地域の方々がインストラクターとなって暮らしの共有や地域の魅力を伝えている。ニールリーダーという自然体験活動の資格を持つスタッフも多数いるので、施設型でないプレーパークを温海でやってみるのも良いのではないかなと思う。羽黒や櫛引のこどもが「温海のプレーパークは海で遊べるらしいよ」と言って来てもらうのも良いと思うし、鶴岡の魅力を知っているこども達が大人になって、新しい世代になっていくのではないかな。

## 議長

今後のプレーパーク整備について期待するようなことはないか。

## 委員

小学校に行った際、中間休みのチャイムと同時に子ども達がグラウンドに飛び出して、元気に遊んでいた。今の子どもはメディアに接する時間が長く、外で遊ぶ時間が短いことが懸念されているが、子どもは遊ぶ場所に飢えているのではないかとずっと思っている。決して外で遊びたくないわけではなく、遊べる環境が少なく、遊べる場所があれば自分達の発想で大人が思いつかないような遊びができると思う。

遊び場が増えれば他県からの移住にも繋がってくると思うので、ぜひ持続可能な整備を進めて欲しい。

## 事務局（建設部長）

市内には、遊具がある公園や無い公園、集中して遊べる大型公園など、186箇所の公園がある。協議会での意見を参考にしながら公園整備を進めていくとともに、いかに使ってもらえるかということも考えていきたい。

## 委員

プレーパーク展開事業業務報告書の21ページに、子どもと大人の求める遊びにギャップが見られたとある。アンケートで子どもの好きな遊びは遊具・施設が一番多く、大人が子どもにして欲しい遊びは自然体験が一番多い。子どもの遊び場整備にあたっては、子どもと大人の両方が求めるものをそれぞれ整備する方向で検討して欲しい。

## 仲アドバイザー

以前、別の地域でアンケートを取った際、子どもが一番求めている遊び場がゲームセンターだった。なぜゲームセンターなのか子どもに聞き取ったりするうちに、ただゲームをやりたいわけではなく、大人から離れて自由に遊べる場所だからということがわかった。子どもの声の背景に何があるか考えていくことが大事だと感じた経験だった。

ギャップについても、なぜギャップがあるのか皆で考えて対応していくことも大事。自然や川遊びも良いが、もしかするとそこに大人の押し付けがあるかもしれないし、いろいろ言われると子どももやりにくくなったりするので、ギャップから紐解いて子どもがやりたい遊びは何なのかを考えるといい。

## 議長

全体を通して質問や意見をお願いします。

## 委員

プレーリーダーは年を取った人ではなく若い人がやってくれるものと思うが、若い人は仕事をしているし、休日に出るのも容易でないと思う。どのようにプレーリーダーを育てていくか心配している。

## 仲アドバイザー

若い人は忙しく、人数も減っているためどうするかという問題はいつもどのような場所でも課題になっている。一方で、高齢の方でもベーゴマや昔遊びなど、親の世代でも知らないようなことを教えることができるので、経験を積んだ上の世代の方がプレーリーダーとしていることは価値があることだと思う。

## 事務局（子育て推進課長）

プレーリーダーとして活動する以外にも、サポーターのような形での参加の仕方もあると思う。旧二小跡地に整備するプレーパークでは、隣のコミュニティセンターに来る地域住民が先生になって、こども達に遊びなどを教えてもらえればと考えており、あらゆる世代の方達が活躍できる場所を作っていきたい。

## 委員

地域子育て支援センターに、地域の年配の女性がボランティアで来ている。ボランティアをすることで自分が地域と繋がっていたり、社会の役に立っていると実感できているようだ。それぞれが得意とする分野で無理なく関わり、繋がりを持つことも、プレーパークの人材資源としての活かし方になると思う。

## 委員

コミセンにもいろいろな趣味を持っている方やいきいきと活動されている方が来る。コミセン移転後は、コミセンの運営自体を見直して、プレーパークや中央児童館も含めて交流する中で、自分達も持っているものを発揮して連携していくなど、これからの組織を整えていくことが必要だと思う。

## 委員

一連のお話で、プレーパークに対する面白いアイデアがどんどん出てきて、もはや鶴岡プレーパーク構想なのではないかと思う。その一部としてプレーパーク整備や、地域との連携、世代間交流をしていったほうがいいのではないか。

以前の協議会で施設の利用料軽減を話す中で、特定の団体に支援するのではなく、やる気のある事業者を募集してはどうかという話があったが、そのことについて、次回以降の協議会で議論したいと思っている。

## 委員

昨年視察に行った川崎の夢パークは中高生の居場所にもなっており、学校に行かないと決めた子や行けない子が、家ではなくそこに来て勉強したり何かを作ったりと、自由な日常生活を送っていた。

鶴岡では中高生の居場所としてマリカなど学習スペースはあるが、何かをしてもいいし何もなくていいという場所はない。せつかく旧二小跡地にコミセンや遊び場ができるので、中高生や、小学生でも学校に行かないと決めた子達が自由に過ごし、色々な人たちと交流して社会と繋がりを持てる場所になればいい。

## 委員

プレーリーダーやプレーパークのことをほとんどの市民は知らないと思うので、どうPRしていくかが一番大きな課題と思う。また、プレーリーダーの養成も重要と思う。

地域の公園もこどもの居場所の一つだが、雨が降ると遊ぶことができない。公民館の開放を考えてもケガなどの心配もありなかなか話が進まないが、公民館を含めてこども達に遊び場を提供することが、我々地域の役員の使命かと思っている。

旧二小跡地のプレーパークは敷地が広く、自然も多いため、どう維持管理していくかが大きな課題になると感じた。

## 事務局（子育て推進課長）

プレーパークやプレーリーダーについて、市民の理解は進んでいないと思うので、来年度予定している体験会も含めてどんどん情報発信していきたいと考えている。

こどもの居場所では、改修後の中央児童館や新第二学区コミュニティセンターに、ホワイエという誰でも自由に使える場所を設けることにしており、勉強したりおしゃべりしたり外を眺めたりと、自由にすごせる空間になればと思う。

敷地全体の維持管理については、それぞれの建物などを管理する団体などを含め、どのような形で管理運営していくかを来年度検討することとしている。

## 議長

全体を通じて仲先生から願います。

## 仲アドバイザー

「委員の意見を聞いて化学反応が起きていろいろなものが生まれた」というお話に、やはりこの協議会は素晴らしい場だと思った。

鶴岡のこども達のために皆様が思いを寄せて集まってくださっていることに大変感銘を受けた。

## 議長

以上で協議を終了する。

## 5 その他 事務局（子育て推進課長）

事務局から今後の進め方についてご説明する。

今年度の協議会は今回で終わり、来年度も2～3回の開催を予定しているのでよろしくお願ひする。

また、来年度もプレーリーダー養成講座と一日プレーパークの開催を予定している。実施が決まったら皆様にお知らせするので参加や見学をお願ひする。

## 6 閉会 事務局（子育て推進課主幹）

—午前11時50分終了—